

- 胚軸の色と花色は紫，小葉の形は卵形で，毛茸は色が白で，形は直，その多少は中程度である。
- 粒の形および粒の大小は，それぞれ「ユキホマレ」と同じ球およびやや大である。粒の子葉色は黄，光沢は弱，へその色は黄，種皮の地色は黄白である。
- 開花期および成熟期は，それぞれ「ユキホマレ」と同じやや早であり，生態型は夏大豆型に属する。
- 子実収量は「ユキホマレ」と同等で，倒伏抵抗性は同品種と同じ強であるが，密植により倒伏が多発することがある。低温抵抗性（開花期／生育期）は「ユキホマレ」のやや強／強に対し強／強で，開花後の低温による裂開粒の発生は少ない。
- シストセンチュウ抵抗性は「ユキホマレ」と同じ強，わい化病抵抗性は同品種の弱に対しやや強である。茎疫病圃場抵抗性および耐湿性はそれぞれ，「ユキホマレ」と同じ強および中である。裂莢の難易は「ユキホ

- マレ」と同じ難，最下着莢節位高は同品種と同じ中である。
- 外観上の品質は「ユキホマレ」と同等である。子実の粗蛋白含有率は「ユキホマレ」より高く，粗脂肪含有率は同品種並である。豆腐破断応力は「ユキホマレ」より高く，豆腐加工適性に優れる。煮豆，納豆および味噌の加工適性は，いずれも「ユキホマレ」と同等である。

栽培適地と奨励態度

- 道央，上川，網走，十勝に適する。栽培上の注意は，
- 「ユキホマレ」に倒伏が発生する圃場では，栽植密度を同品種以下にすること，
 - ダイズシストセンチュウレース3抵抗性であるが，連作および短期輪作を避けるとともに，レース3抵抗性品種にシストが着生する圃場では作付を避けること，である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	豆腐破断応力 (g/cm ²)	試験年次
				主茎長 (cm)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	とよみづき	7.17	9.22	69	69.9	微	364	105	38.6	2中	92	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.17	9.20	64	65.7	微	347	100	36.1	2下	73	
	トヨコマチ	7.17	9.26	72	65.8	少	378	109	38.7	3上	93	
北見農試	とよみづき	7.19	9.23	63	74.6	微	363	101	34.6	2中	81	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.19	9.23	59	73.3	微	360	100	35.2	2中	67	
	トヨコマチ	7.20	9.26	66	65.1	少	356	98	36.2	2中	86	
上川農試	とよみづき	7.11	9.15	81	77.6	多	369	97	34.6	2下	80	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.11	9.15	73	72.6	多	380	100	35.0	2中	62	
	トヨコマチ	7.11	9.20	79	73.1	甚	372	98	34.8	3中	75	
中央農試	とよみづき	7.13	9.18	56	64.2	微	324	98	37.6	2下	91	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.13	9.17	55	62.9	少	329	100	35.6	2下	67	
	トヨコマチ	7.14	9.20	62	63.7	中	349	106	36.3	3上	84	

参照 1) 北海道農政部編，平成24年普及奨励ならびに指導参考事項，13-16（2012）。

4. 小豆

- きたろまん（系統名 十育147号）2005年
登録番号：（北海道）小豆北海道第23号
（農水省）あずき農林16号
（種苗法）第16296号

セールスポイント

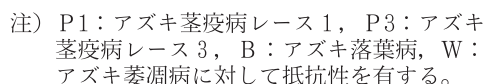
開花着莢期の耐冷性に優れ落葉病，茎疫病レース1及び萎凋病に抵抗性を有するやや早生の普通小豆品種である。

来歴 本品種は，成熟期が早く，良質，多収，落葉病・茎疫病・萎凋病抵抗性品種の育成を目標に，1995年北海

道立十勝農業試験場において「十育137号」を母，「十育138号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。2000年より「十系782号」，2001年からは「十育147号」の系統名で各種試験を行い，2005年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

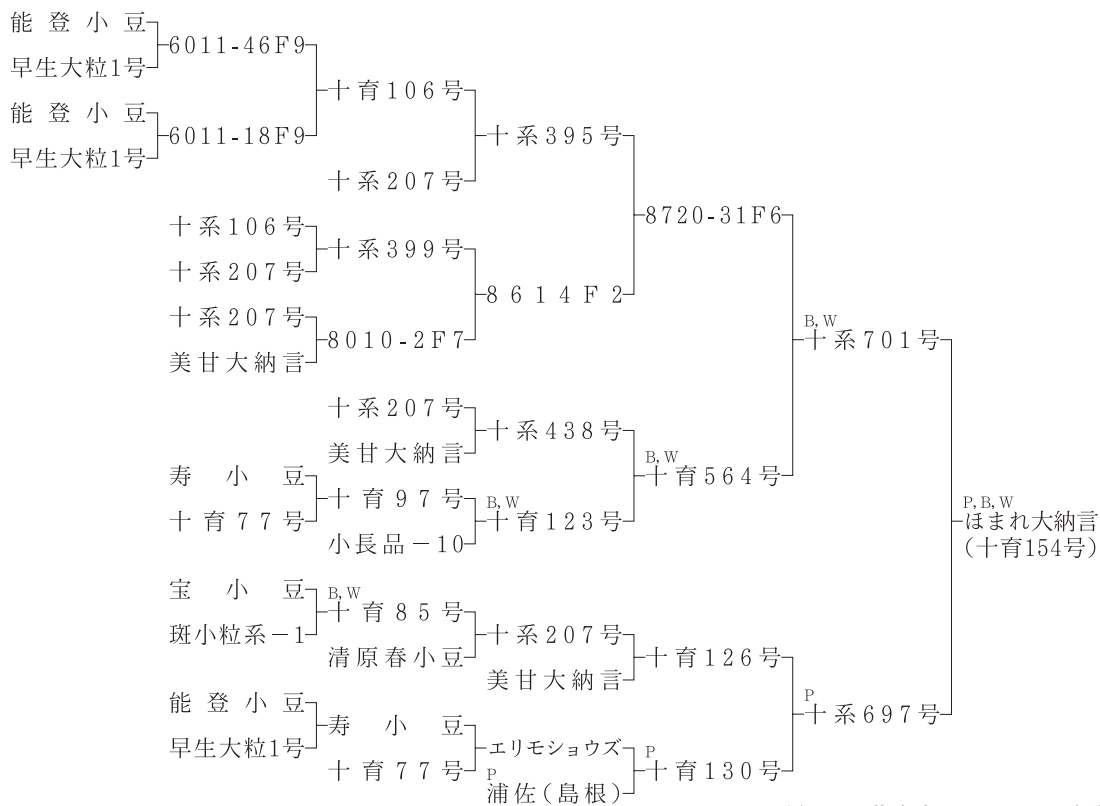
特性概要

- 主茎長は短の長で「きたのおとめ」より短く，主茎節数はやや少ない。分枝数は同等である。
- 小葉の形は「きたのおとめ」と同じ円葉である。
- 子実の形は円筒，大きさは中の大に属し，百粒重は



来歴 本品種は、極大粒、落葉病・茎疫病（レース 1，3）・萎凋病抵抗性、道央以南向け大納言小豆品種の育成を目標とし、1997年に北海道立十勝農業試験場において「十系701号」を母，「十系697号」を父として人工交

配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。2003年に「十系887号」，2004年からは「十育154号」の系統名で各種試験を行い，2008年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



注) P：茎疫病レース1・3抵抗性，B：落葉病抵抗性，W：萎凋病抵抗性を有する。

特性概要

- 主茎長は中の短，主茎節数は中，分枝数は中で，「アカネダイナゴン」と同じである。
- 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍，花色は黄である。
- 子実の形は「アカネダイナゴン」の烏帽子に対して「ほくと大納言」と同じ円筒，大きさは大に属し，百粒重は「アカネダイナゴン」より重く，「ほくと大納言」より軽い。種皮色は「アカネダイナゴン」の濃赤，「ほくと大納言」の淡赤に対して赤である。
- 開花期は中，成熟期は中の晩とともに「アカネダイナゴン」「ほくと大納言」と同じである。

- 耐倒伏性と低温抵抗性は中，落葉病抵抗性と萎凋病抵抗性は強，茎疫病抵抗性はかなり強である。
- 子実収量は「アカネダイナゴン」より少ないが，大納言規格内歩留まりは高い。
- 外観品質は「アカネダイナゴン」「とよみ大納言」と同等で，雨害による濃赤粒の発生が少ない。

栽培適地と奨励態度

道北，道央，道南の大納言小豆品種栽培地帯に適する。栽培上の注意としては，落葉病，茎疫病（レース1，3），萎凋病に抵抗性を持つが，栽培に当たっては適正な輪作を守る。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		大納言小 豆規格率 (%)	百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	子実重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	ほまれ大納言	7.30	9.24	4.0	94	15.2	324	91	98	20.8	3下	2004～ 2007
	アカネダイナゴン	7.28	9.23	4.0	89	14.8	357	100	92	18.2	3下	
	ほくと大納言	7.30	9.21	3.7	89	12.8	338	95	99	22.7	3下	
上川農試	ほまれ大納言	7.22	9.05	2.6	73	14.4	270	93	88	17.1	4上	2004～ 2007
	アカネダイナゴン	7.21	9.05	2.5	70	14.1	291	100	64	15.2	4中	

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		大納言小 豆規格率 (%)	百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	子実重 (kg)	同左比 (%)				
中央農試	ほまれ大納言	7.26	9.8	2.0	67	14.1	270	89	91	17.7	3下	2004～ 2007
	アカネダイナゴン	7.26	9.9	2.1	65	13.8	304	100	79	15.9	等外	
	ほくと大納言	7.27	9.8	1.3	58	11.7	268	88	98	18.9	4上	
	とよみ大納言	7.26	9.6	1.0	52	10.8	301	99	99	21.3	3下	
道南農試	ほまれ大納言	7.30	9.14	1.3	61	14.7	289	94	93	18.9	3中	2004～ 2007
	アカネダイナゴン	7.30	9.16	2.2	62	14.4	308	100	83	17.0	3下	
	ほくと大納言	7.30	9.13	1.8	59	12.0	269	87	97	20.7	3下	
	とよみ大納言	7.30	9.12	1.7	53	10.4	294	95	100	22.8	3上	

注1) 栽植密度：畦幅60cm，株間20cm，2本立。

2) 播種期は，十勝農試：5月24日，上川農試：5月24日，中央農試：5月26日，道南農試：5月27日。

3) 倒伏程度：0(無)，0.5(微)，1(少)，2(中)，3(多)，4(甚)。

参照 北海道農政部編，平成20年普及奨励ならびに指導参考事項，5-8（2008）。

(3) きたあすか（系統名 十育155号）2010年

登録番号：（北海道）小豆北海道第25号

（農水省）あずき農林18号

（種苗法）第21548号

来歴

本品種は，道央以南向けの耐病性中晩生普通小豆品種の育成を目標に，1998年北海道立十勝農業試験場において「十育137号」を母，「十育140号」を父に人工交配し，以降選抜・固定をおこなって育成した。F5世代では，北海道立中央農業試験場において道央以南向けの選抜をおこなった。2003年には「十系881号」，2006年から「十育155号」の系統名で各種試験を行ない，2010年に優良品種になった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

セールスポイント

「エリモショウズ」に比べて多収で，粒大が大きく，流通上の普通小豆規格内歩留まりが高く，粒色はやや淡い道央以南向けの普通小豆である。アズキ落葉病（レース1），アズキ茎疫病（レース1，3），アズキ萎凋病に対して抵抗性を持つ。



注) 1. 浦佐(島根)：昭和36年島根県農試より導入した極晩生在来種。茎疫病抵抗性を有する。

黒小豆(岡山)：昭和48年岡山県農試より導入した極晩生、種皮色灰白斑在来種。落葉病、萎凋病抵抗性を有する。

2. 図内の太字アルファベットは耐病性の由来を示す。P：アズキ茎疫病 (Phytophthora stem rot) 抵抗性、B：アズキ落葉病 (Brown stem rot) 抵抗性、W：アズキ萎凋病 (Wilt) 抵抗性

特性概要

1. 主茎長は「エリモショウズ」より長いが、主茎節数は同程度で、上位節間が伸長する。分枝数は同程度。
2. 小葉の形は下位葉，上位葉とも円葉，熟莢色は褐，莢の長さは中，莢の幅は「エリモショウズ」より広い。
3. 「エリモショウズ」と比較して，開花期は同等からわずかに遅い。成熟期はやや遅い。
4. 莢数は「エリモショウズ」に比べやや少なく，一莢内胚珠数，一莢内粒数は同等，百粒重は重い。子実の形は「エリモショウズ」と比較するとやや短い。子実収量は多い。
5. 落葉病抵抗性，萎凋病抵抗性は強，茎疫病抵抗性はかなり強，低温抵抗性は「エリモショウズ」の中に対し，やや弱である。倒伏抵抗性は「エリモショウズ」のやや強に対し，中である。
6. 種皮の地色は「エリモショウズ」に比べ淡く，アン

の色調も「エリモショウズ」より明るい。外観品質は，十勝農試では「エリモショウズ」に劣るが，普及地帯では同品種と同等から優る。

7. 種皮歩合は「エリモショウズ」の中に対して低であり，アン粒子径は「エリモショウズ」に比べやや大きい。

8. 加工製品の試作試験では，同産地の「エリモショウズ」と比較して同等からやや優る評価が多い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は，道央・道南における早・中生種栽培地帯，中生種栽培地帯，中・晩生種栽培地帯およびこれに準ずる地帯である。

栽培にあたっては，落葉病・茎疫病（レース1，3）・萎凋病に抵抗性を持つが，適正な輪作体系を守る必要がある。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	莢 数 (莢/株)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	きたあすか	7.31	9.27	96	3.9	48	3.0	427	110	18.8	4上	2006～ 2009
	エリモショウズ	7.30	9.24	73	3.5	57	2.1	389	100	14.6	3中	
	しゅまり	7.30	9.23	77	4.1	50	1.5	366	94	15.0	3下	
中央農試	きたあすか	7.27	9.7	72	4.0	45	1.7	319	109	15.9	2下	2006～ 2009
	エリモショウズ	7.26	9.8	64	4.4	47	2.4	293	100	13.3	3中	
	しゅまり	7.27	9.7	66	4.7	46	1.9	273	93	12.7	3中	
上川農試	きたあすか	7.23	9.6	83	3.6	47	2.2	351	108	15.1	3上	2006～ 2009
	エリモショウズ	7.23	9.6	62	4.3	53	2.1	326	100	12.3	3上	
	しゅまり	7.23	9.7	66	4.8	50	2.0	327	100	11.8	3上	
道南農試	きたあすか	7.30	9.10	57	2.4	43	0.7	331	107	16.3	3中	2006～ 2009
	エリモショウズ	7.29	9.10	50	3.1	50	0.4	308	100	13.1	2下	
	しゅまり	7.29	9.9	54	3.4	46	0.4	294	95	12.5	3上	

注1) 播種期は，十勝農試：5月24日，中央農試：5月26日，上川農試：5月25日，道南農試：5月29日。

2) 栽植密度：畦幅60cm，株間20cm，2本立。

3) 倒伏程度：0(無)，0.5(微)，1(少)，2(中)，3(多)，4(甚)

参照 1) 北海道農政部編，平成22年普及奨励ならびに指導参考事項，1-4(2010)

5. 菜豆

- (1) **福寿金時**（系統名 十育B78号）2010年
登録番号：（北海道）菜豆北海道第30号
（種苗法）第21798号

セールスポイント

インゲンマメ黄化病抵抗性“極強”であり，本病に対する薬剤防除は不要である。成熟期，収量性および粒大等は，金時類品種「福勝」とほぼ同等であり，加工適性も同程度に優れる。

来歴 本品種は，インゲンマメ黄化病（以後，“黄化病”と略す）に抵抗性を持ち，多収，大粒で良質の金時類品種育成を目標に，2001年に北海道立十勝農業試験場において，多収，大粒で良質の金時類品種「福勝」を反復親，黄化病抵抗性遺伝子（*Sdvy-1*）を有する「大福」を1回親として，DNAマーカー選抜による連続6回の戻し交配を行い，選抜，固定を図り育成した品種である。なお，DNAマーカー選抜は，北海道立中央農業試験場（以後「中央農試」と略す）で行った。2006年から「十